

整理番号	23
部名	経済スポーツ部
課名	スポーツ推進課

1. 基本情報

事務事業名	15 東原公園球技場管理事業				事業類型	施設運営受益者負担型									
予 算	会計	10	一般会計	款	10	教育費	項	05	保健体育費	目	01	スポーツ推進費	予算額	7,619	千円
長期計画	章	4 文化・交流活動がいきづくまち			施策分野	4 スポーツ・レクリエーション			基本施策	(2) 体育施設の整備と管理運営の充実					
実施計画	事業番号・事業名	4-6 青梅市スポーツ推進計画の策定・推進													
関連計画	青梅市スポーツ推進計画														
根拠法令等	青梅市体育施設条例														

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	市民	目的（どういった状態にしたいのか）	市民の体育およびレクリエーションその他社会教育の振興を図り、心身の健全な発達に資する
-----------	----	-------------------	--

3. 事業の指標と単位当たりコスト

成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	年度	平成31年4月1日現在人口			市民1人当たりコスト(b/人口)
					30年度 A	元年度 B	対前年度 B-A	
利用者数	各施設利用者合計数	人	目標			22,541	22,541	68.4 円
				実績	22,541	23,810	1,269	
				単位コスト	円 490 円	円 384 円	-106 円	
稼働率	利用枠数/利用可能枠数	%	目標			41.4	41.4	純行政コスト (f/人口)
				実績	41.4	37.9	-3.5	
				単位コスト	円 266,908 円	円 240,976 円	-25,932 円	

4. 行政コスト計算書

勘定科目		年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A	(単位：千円)					
経常費用	人件費	職員給与費	1,005	710	-295	経常収益	分担金・負担金	0	0	0	
		賞与等引当金繰入額	89	63	-26		使用料・手数料	79	45	-34	
		退職手当引当金繰入額	0	0	0		その他	20	29	9	
		その他	0	0	0		合計 (a)	0	99	74	-25
		小計	0	1,094	773		-321	臨時損失 (c)	0	0	0
経常費用	業務費用	物件費	9,186	7,604	-1,582	臨時利益 (d)	0	0	0		
		維持補修費	0	0	0	臨時損益 (d-c=e)	0	0	0		
		減価償却費	756	756	0	純行政コスト (f)=(b-a)-e	0	10,951	9,059	-1,892	
		その他	0	0	0						
		小計	0	9,942	8,360	-1,582					
経常費用	その他の業務費用	支払利息	0	0	0						
		その他	14	0	-14						
		小計	0	14	0	-14					
移転費用	補助金等	0	0	0							
	その他	0	0	0							
合計 (b)	0	11,050	9,133	-1,917							

科目	年度決算額	30年度決算額 A	元年度決算額 B	対前年度 B-A
国庫支出金	0	0	0	0
都支支出金	0	0	0	0
その他	99	74	-25	-25
合計	0	99	74	-25

5. 人員体制 (単位：人)

	年度	30年度 A	元年度 B	対前年度 B-A
職員		0.12	0.0845	-0.0355
再任用職員		0.00	0.00	0.00
嘱託職員		0.00	0.00	0.00
計	0.00	0.12	0.0845	-0.0355

区分	年度	30年度	元年度
有形固定資産減価償却率		87.3	55.3
受益者負担割合 (a/b)		0.9	0.8

6. 行政コストの主な事項

	経常費用	経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	・管理運営委託料（指定管理料） 7,604,000円	・使用料内訳（スポーツ推進課・市民センター等受付分） 球技場：18,000円、夜間照明：27,000円 ・その他内訳 退職手当引当金減額分 29,000円
主な増減理由	体育施設全体における指定管理料の配分見直しによる指定管理運営委託料の減	主な増減理由 退職手当引当金減額分の増

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A		
資産の部	事業用資産	6,784	38,356	31,572	負債の部	地方債	0	0		
	土地	0	0	0		退職手当引当金	1,019	689	-330	
	建物	0	0	0		その他	0	0	0	
	減価償却累計額	0	0	0		1年内償還予定地方債	0	0	0	
	その他	6,784	38,356	31,572		未払金	0	0	0	
	有形固定資産	0	0	0		賞与等引当金	0	0	0	
	土地	0	0	0		その他	0	0	0	
	工作物	0	0	0		合計	1,019	689	-330	
	減価償却累計額	0	0	0		純資産の部	固定資産等形成分	6,784	38,356	31,572
	その他	0	0	0			余剰分(不足分)	-1,019	-689	330
	物品	675	675	0			合計	5,765	37,667	31,902
	減価償却累計額	-675	-675	0			負債および純資産の部 合計	6,784	38,356	31,572
	無形固定資産	0	0	0						
	投資その他の資産	0	0	0						
	流動資産	0	0	0						
現金	0	0	0							
未収金	0	0	0							
徴収不能引当金	0	0	0							
その他	0	0	0							
合計	6,784	38,356	31,572							

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(その他)	勘定科目	
決算額の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工作物 85,052千円 (防球ネット、ラグビーボール、ベンチ、照明設備等) ・ 工作物減価償却累計額 △46,696千円 	決算額の主な内訳	
主な増減理由	LED照明設置(一般体育施設整備経費)による工作物の増	主な増減理由	

9. 事業の評価【一次評価】

30年度末時点の課題事項	引き続き利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図る必要がある。	対応結果	解決	事業目的を達成するための元年度事業目標【Plan】	利用者増加に向け、施設の適切な維持・整備を図っていく。	
事業目標達成に向けた主な活動実績・効果【Do】	照明設備のLED化工事を行い、全体の照度が上がったことで利用環境を向上させた。また、利用者も増やすことが出来た。					
視 点 別 事 業 評 価 【Check】				事業目標達成度評価【Check】		
【必要性】事業の公共性 市民ニーズ	高い(一定の必要性あり)	【効率性】費用対効果	良い(改善の余地あり)	【有効性】事業目的に対する事業実施の効果	高い(改善の余地あり)	達成
元年度末時点の課題事項【Check】	更なる利用者増加、稼働率上昇に向け、施設の適切な維持・整備を図る。	今後の方向性【Action】	現状維持	次年度の取組【Action】	施設の適切な維持・整備を図る。	

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評 価	<p>本球技場は、サッカー場1面、ソフトボール場2面が取れる、夜間照明を設置した多目的施設であり、多くのスポーツ愛好者に利用されているほか、夏季の水泳場開場期間には、利用者用駐車場として開放していることから、市民に対する認知度も高いものとなっており、施設利用者も比較的多いものとなっている。</p> <p>前年度比で利用者は増加したが、稼働率は減少している。照明設備のLED化で利用環境が向上していることなどもアピールし、今後も新しい生活様式に対応しながら利用者の増加や稼働率の向上に努めることとする。</p>
-----	---